

かがやく

ハーモニーひたちなか

第26号

2019.3発行

編集/発行

ハーモニーひたちなか
ひたちなか市女性生活課

男女共同参画強調月間事業

テーマ 「協力し 男女でつくる すてきな未来」

本市では毎年11月を男女共同参画強調月間と定め、男女共同参画社会の実現に向けて、市民や事業者の方に関心と理解を深めてもらうために様々な事業を実施しています。

平成30年度は「協力し 男女でつくる すてきな未来」をテーマに、男女共同参画を推進する市民団体のネットワークであるハーモニーひたちなかと協働で、趣向を凝らした企画を展開しました。



▲ハーモニーフェスタ2018会場の様子



▲ハーモニーひたちなかフォーラム講演会の様子

平成30年11月3日(土) 市総合体育館
サブアリーナで「ハーモニーフェスタ2018」
を開催し、ハーモニーひたちなか構成団体
による紙芝居、紙工作など親子で楽しめる
イベントを行いました。また、ハーモニー
ひたちなかの紹介パネルや構成団体を紹介
するパネルを展示し、来場された方に
ハーモニーひたちなかや構成団体の活動を
PRすることが出来ました。

11月25日(日)にはハーモニーひたちな
かフォーラムをワークプラザ勝田で開催し
ました。同フォーラムでは、男女共同参画
推進事業所の表彰式や、男女共同参画に
関するキャッチフレーズ入選者の表彰式を行
いました。表彰式終了後には、大阪大学の
石蔵文信さんを講師に迎え
「自立した幸せな生き方」
をテーマに講演会を行いました。



ハーモニーフェスタ 2018 開催!

ハーモニーひたちなか 20周年を記念して、私たちの活動を知っていただくために今年度リーフレットを作成し、ハーモニーフェスタ来場者へお配りしました。

わたしたちが目指す社会

家庭
性別役割分担意識にとらわれず協力しよう

職場
多様な働き方を

地域
女性の社会進出を大いに助けよう

チャンスは平等!個性を活かせるいい社会

ハーモニーひたちなか活動紹介

- 男女共同参画社会に関する研修会
- 多岐の機関関係・団体との交流会
- ハーモニーフェスタ
- ハーモニーひたちなかフォーラム
- ハーモニー歩道展
- 職場での結婚のサポート
- 多岐機関が「やがて」する連携

男女共同参画社会の進化とともに、ハーモニーひたちなかの活動も日々進化して、様々な新しい取り組みを生み出しています。次で最も注目されている取り組みをご紹介します。

多岐機関が連携して取り組んでいる「男女共同参画社会の進化」として、目的・目標・活動の推進を図ることで、多岐機関が連携して取り組んでいる取り組みをご紹介します。

活動日(月)〜(金)9時〜17時
休館日 土、日、祝、年末年始(12/29〜1/3)
住所 ひたちなか市世野町2丁目8番2号
TEL・FAX 029(354)0167

全てを越えて
人とながるハーモニー

ハーモニーひたちなかの仲間

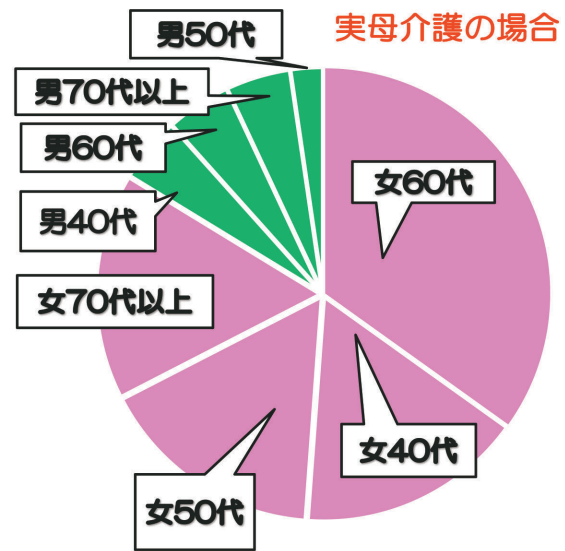
全13団体

- ひたちなか市男女共同参画推進委員会**
推進委員として、市民生活の向上や男女共同参画の推進に努めています。
- ひたちなか市男女共同参画推進協議会**
多岐機関が連携して取り組んでいる取り組みをご紹介します。
- ひたちなか市男女共同参画推進協議会**
多岐機関が連携して取り組んでいる取り組みをご紹介します。
- ひたちなか市男女共同参画推進協議会**
多岐機関が連携して取り組んでいる取り組みをご紹介します。
- ひたちなか市男女共同参画推進協議会**
多岐機関が連携して取り組んでいる取り組みをご紹介します。

ハーモニーフェスタアンケート調査



男性も女性も実母 (36%) 実父 (26%) の介護をしている。9年前の同じアンケートでは義母 (30%) 実母 (22%) の順であり、介護をする相手も変わってきている。また、介護者の男女比は2:8となっており、男性に比べ女性のほうが介護を多くしている事がうかがえた。



ハーモニーフェスタ協力団体紹介

ガールスカウト茨城第14団のみなさんは、毎年ハーモニーひたちなか会員と共に会場を盛り上げてくれています😊



ハーモニーひたちなかフォーラム

講演会

自立した幸せな生き方 ～男と女しなやかに楽しく生きる～

とき 11月25日(日)
ところ ワークプラザ勝田大会議室
講師 石蔵 文信さん(大阪大学招へい教授)



「本日の話は、男性には少々キツイものとなります。途中退出される方も時にいらっしゃるのですが、先に謝っておきますね」と始まった講演会は、石蔵さんの軽快でユーモアに富んだ話運びの中、終始笑いの絶えない時間でした。

定年後も夫婦仲良く互いに幸せな人生を送れるように、独身や独り身になった時には、ずっと気づかれぬような孤独死を迎えずにすむように。石蔵さんの切り口は、厳しいながらも温かく具体的でかつ説得力に溢れていました。

医師としてうつ病や更年期に悩む患者に携わってきた臨床データ、研究者として集めた様々な書籍に載った男女間の意識調査のデータ、地域での活動を通しての経験など個人的な興味から社会問題（高齢者の心中・殺人事件など）の分析を紹介されました。

そして、男性に語りかけます。「あなたは妻を対等な一人として試みていますか。ありがとうございます。ごめんなさい。愛しているよ。と伝えてありますか」「定年後は何をしたいで

すか。趣味以外にスケジュール帳を毎日埋める予定を持っていますか」さらに、「これらの質問に答えられない人は、趣味なし、家なし、仕事なし、そして我が家に居場所なしの『終わった人』になってしまいますよ」と忠告。

ひたすら仕事に頑張ってきた男性は、仕事以外での自分の居場所を家庭にも地域にも、人の間にも作れていないために、すでにそこに根を張って生きてきた妻とは定年後に対する立場も考え方も違うのだ、と気づきましょうと促します。必要なのは、仕事の場を離れても生きていける＝自立した自分を育てることなのです、と。

「妻の話はただ聞きましょう。真剣に解決策を考えてはいけません。彼女たちは、ただ、聞いて欲しいだけなのです。意見は求めていないと知りましょう。」

確かに男性に厳しいお話が続きました。けれど、その後帰宅してから夫が早速行動改革に努めてくれた、と嬉しそうに語る女性に出会いました。男性が自立すれば女性の自由度は増えます。結果、今求められている共存できる社会につながるのでしょうか。

男女共同参画推進事業所表彰

男女が共に働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる次の事業所が表彰を受けました。

<アポロアイシーティー 株式会社> ソフトウェア開発業（東石川）

ワーク・ライフ・バランスの実践支援を積極的に行っていることや、会社独自の医療費助成制度があることなど、性別に関わらず働きやすい職場環境を整備していることが評価されました。



男女共同参画に関する作品表彰

一人ひとりが個性や能力を發揮できる社会をイメージした979作品の応募があり、その中から次の6名の方が入賞しました。最優秀作品は次年度の男女共同参画強調月間のテーマとして啓発活動に用いられます。

<最優秀作> 「みとめあおう 自分も相手も大切に」 根本 大雅さん

<優秀作> 「男女の絆 笑顔が光る 未来をつくろう」 坂場えれんさん

「個性を認め イキイキと みんなで創る 社会のカタチ」 小林 千紗さん

<佳作> 「認め合えば 笑顔に 助け合えば

大きな力に」大内 柚凜さん

「男女で作ろう 未来への架け橋」 松浦 亜弥さん

「さあ ふみだそう 男女のかきねをこえた

新しい未来へ」 生天目遥香さん



男女で担うまちづくり

男女で担う自治会活動で、楽しいまちが生まれます。ひたちなか市の自治会で唯一の女性の副会長、安藤友子さんにお話を聞きました。

安藤さんの所属していた自治会には婦人部が以前からあり、部長を2年交替で担当していました。順番で受け、その後婦人部が分かれる事になり、部長をまた続けることになりました。3年目の頃に自治会長から副会長を勧められました。当時の会長は「自治会の役員は女性も参加すべきだ」という考え方から、安藤さんが総会で質問をしている様子などを見てお願いされたようです。

安藤さんがおっしゃるには「家族と相談したところ、私の突きつめる性格を知っていたので『大丈夫か』と言いながらも夫は了承し、同居の娘にも『2年なら協力するよ』と応援されて家族の後押しもあり、副会長を受けました。実際に携わってみると、会長はじめ皆さんが女性の視点を重視してくれ、誰もが平等に発言できる雰囲気

気だったので、やりづらさは感じませんでした。ただ、費やされる時間が多く、家族の協力がなければ大変な任務だなと実感した」との事です。

現在彼女は三世代交流やお祭りなどを開催しながら、人と人との繋がりを大切にしたい事業に取り組んでいます。

他の自治会でも書記や会計を受け持つ女性も生まれ、女性の役員が増えています。

みんなで関わり互いに支え合って地域づくりを進めていくことが、いきいきと暮らせる住みよいまちにつながっていくのでしょうか。



男女共同参画講座

いざという時、慌てない防災の心得と片づけ

と き 12月7日(金)
ところ 男女共同参画センター
講師 長峰 智子さん
(一社)実家片づけ整理協会



講師は、自己紹介をした後に、参加者同士が話をする時間も設け、会場内を和やかな雰囲気にした。

親の家の片づけは、「きれいにスッキリ」を片づけの目的にせず、物を大切にするという親世代の価値観を尊重しながら「安心・安全・健康に暮らせる家」を親子共通の目的にする事が大切で、いちばん重要なのは、親の家は親が主役であると言う事。

片づけるときは、「いる・いない・一時保管箱」という3の法則を使う。3の法則とは、捨てなくてもいい仕分け方法で、物を捨てることに対して抵抗のある親世代にとっては、捨てなくてもいいという安心感から片づけがスムーズにいくとの事、また、一時保管箱にはいくつかのメリットの他に、

裏ミッションがある。

また、災害時に生き抜くための事前対策として、家中、特に寝室を安全な場所にしておく必要性を阪神淡路大震災の事例をあげながら説明し、家具の配置や物の置き方、物を整理して家具をなるべく減らす事など、具体的な対策なども聞いた。

「実家の片づけ」は、ほとんどの人が無関係でいられない。少子高齢化で日本が初めて直面する社会問題になっていると続けた。それは、老々介護の前の老々片づけ、ゴミ屋敷化、空き家問題など、いずれも私たちにとって身近な問題だった。

話の合間に、クイズやフリップトークなどを挟み、重いテーマではあったが、終始笑いが出るなど楽しい講座であった。

問合せ先
男女共同参画センター
笹野町2丁目8番2号
TEL・FAX 354-0167



▲ミニカーリングの遊具

たいと思います。

(Y・S)

私の夫は、製品の開発・設計等の仕事をしていました。その経験を生かし、定年後ボランティア団体「茨城遊びのサポーター」を立ち上げました。
様々な遊びの道具を作り小学校・子ども会を中心に県内各地で活動しています。
私も夫と協力して子どもたちと一緒に工作やゲームをした皆さんの元気をもらっています。
これからも共に活動していきたいと思っています。

編集後記